

# データ流通ワーキンググループ報告

課題A 課題責任機関： 国立研究開発法人 防災科学技術研究所

事業責任者(説明者)： 上田 英樹

火山研究推進センター 主任研究員

地震津波火山ネットワークセンター 火山観測管理室長

# データ流通WG（2017年7-11月に3回開催）

## ○データ流通WG開催状況

### 第1回

日時 平成29年7月24日（月） 14時00分～17時00分

場所 フクラシア東京ステーション K会議室

### 第2回

日時 平成29年9月14日（木） 13時00分～16時00分

場所 フクラシア浜松町 A+B会議室

### 第3回

日時 平成29年11月6日（月） 13時00分～16時00分

場所 フクラシア東京ステーション 5L会議室

## ○データ流通WG委員名簿（五十音順）

相澤 広記	九州大学	准教授
上田 英樹	防災科学技術研究所	主任研究員
大倉 敬宏	京都大学理学部	教授
大湊 隆雄	東京大学地震研究所	准教授
神田 径	東京工業大学	准教授
栗谷 豪	北海道大学	准教授
篠原 宏志	産業技術総合研究所	首席研究員
中道 治久	京都大学防災研究所	准教授
橋本 武志	北海道大学	教授
伴 雅雄	山形大学	教授
藤原 智	国土地理院	地理地殻活動総括研究官
本多 亮	富士山科学研究所	研究員
前田 裕太	名古屋大学	助教
前野 深	東京大学地震研究所	准教授
松島 健	九州大学	准教授
宮村 淳一	気象庁	火山対策官
山本 希	東北大学	准教授
行竹 洋平	温泉地学研究所	研究員

# データ流通WGのまとめ

## 基本的な考え方

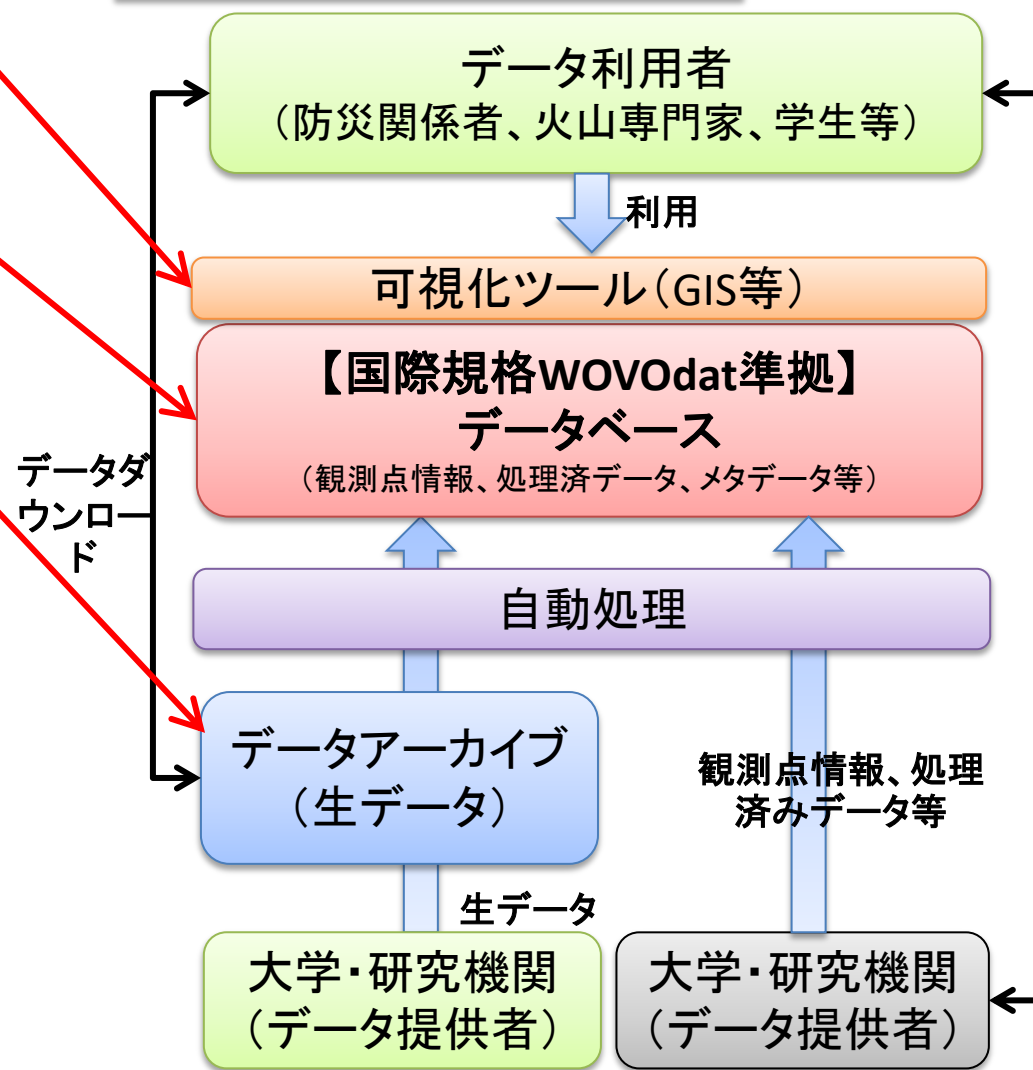
- 火山研究の活性化、研究分野・組織間の連携の強化、データの活用促進、火山防災、人材育成に資することを目的としてデータ流通・共有を推進する。
- データ流通・共有の仕組み作りにおいては、予算や人的資源を有効活用し、できるところから着手する。また、データ提供者等の貢献者を尊重する。

## 概要

- 多項目のデータを可視化し、火山観測データの火山研究や防災等への利用を促進する。
- 国際規格のデータベースにより、関係機関の多項目の観測点情報や処理済みデータを統合。研究分野間、国内外の組織の連携の強化し、共同研究を促進する。
- 一部の生データは防災科研にアーカイブし提供する。データの散逸を防ぐとともに、データ提供者の負担を軽減する。(利用にはデータ提供者の同意が必要)
- データ流通の仕組みを活用し、データの利活用や火山研究の活性化に資する取り組みを実施する体制について今後検討する。受益者負担の考えに基づく維持管理の仕組み等についても引き続き検討する。

その他に、流通・共有するデータの種類や対象観測点、流通のための装置及び回線等に係る費用分担・責任分界点について検討した。

## 火山分野のデータ流通のイメージ

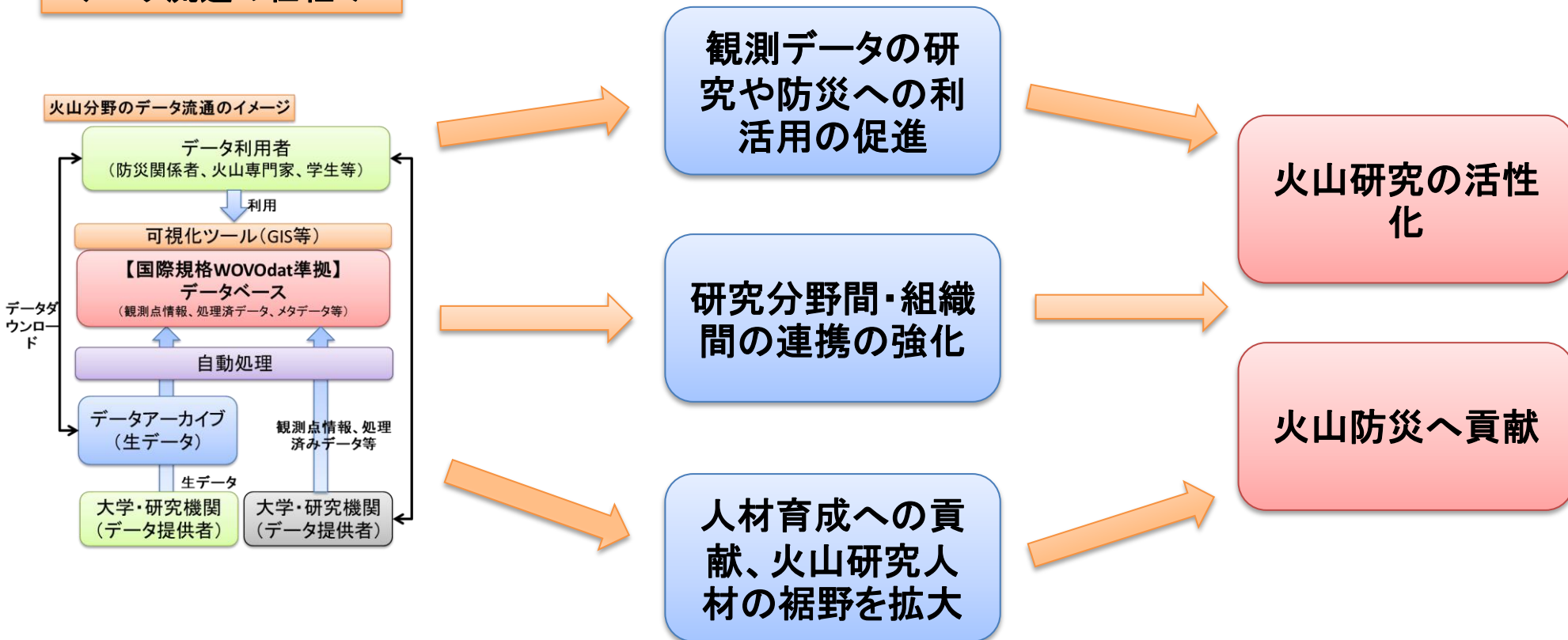


# H30年度以降の取り組み 火山研究の活性化と火山防災への貢献

## データ流通の目的

○火山研究の活性化、研究分野・組織間の連携の強化、データの活用促進、火山防災、人材育成に資することを目的としてデータ流通・共有を推進する。

## データ流通の仕組み



データ流通の仕組みによって共同研究は進めやすくなるが、作っただけでは火山研究の活性化にはつながらないので、そのための取り組みが必要。

- (案) Japan Volcanological Data Network (JVDN)
  - 直訳すると「日本火山学データネットワーク」だが、海外との連携や海外へのアピールを考えると英語名(アルファベット)が必須と思われる(例、JpGU)。
  - オールジャパンで行うので、Japanをつけている。
  - 観測データだけでなく、地質データも扱うので、Volcanological Data
  - データが1か所に集まるわけではなく、各組織のデータをつなぐものなので、Data Center やDatabaseではなくData Network
  - 今後、「一元化」や「データ流通」という言葉は使わない